

入浴中の事故編



～予防ポイントを実践して病気や事故を未然に防ぎ、救急事故を予防しよう！～

入浴中の事故は、浴室、洗面所、脱衣所等で発生し、転倒、転落、溺水などの不慮の事故に区分されるものの総称です。乳幼児や高齢者に多く発生するため、年齢に応じた注意や備えで事故を防ぎましょう。

今日からできる「入浴中の事故」予防（乳幼児）

- ☐ 子どもから目を離さない
- ☐ 保護者が髪を洗う際は、子どもを浴槽内に残さない
- ☐ 入浴後は浴槽の湯を抜く
- ☐ 浴室内で走ったり、浴槽のふたに乗ったりさせない
- ☐ 浴室ドアの施錠、進入防止柵の設置など、子どもだけで入れないようにする

今日からできる「入浴中の事故」予防（高齢者）

- ☐ 床面の石けんやシャンプーを洗い流し、滑りやすい環境を作らない
- ☐ 浴室や浴槽に手すりを設置する
- ☐ 浴槽への出入りはゆっくり行う
- ☐ 入浴前に家族に一声かける
- ☐ 入浴が長い場合などは、家族が様子を確認する

一つでも当てはまれば 迷わず119番通報

- ☐ 溺れている
- ☐ 意識がない・反応が悪い
- ☐ 呼吸が苦しい、または呼吸がない
- ☐ 浴槽や洗面器の湯などに顔がつかっていた
- ☐ 咳が続き、顔色が悪い、唇が紫色になる

京都市の浴室等で発生した 一般事故搬送傾向



- ・乳幼児と高齢者に多い
- ・乳幼児は通年で注意が必要
- ・高齢者は12月～3月に多い
- ・溺水は、高齢者に多い

応急手当と対応

- ☐ 溺れていたら直ちに顔をお湯の外に出す
- ☐ 浴槽の栓を抜く
- ☐ 周囲に助けを求め、119番に通報する
- ☐ 可能であれば浴槽から助け出す
- ☐ 反応がなく普段通りの呼吸がない場合は、心肺蘇生をする



京都市消防局
KYOTO CITY FIRE DEPARTMENT

救急車を呼ぶか迷うときには **#7119** をご利用ください
【監修】京都市・乙訓メディカルコントロール協議会

